

“小野川映画”プロジェクト

「小野川・ザ・フィルムズ・コミュニン」が世界に打ち出す

“小野川映画”発足記念

米沢 **小野川映画**

第1弾 映画作品

『ヲノグアワ -WONOGAWA-』

企 画 書

監督・脚本 山口 ヒロキ

製作:ヲノグアワ製作委員会
企画・制作:グランブル16/小野川ザ・フィルムズ・コミュニン
総合プロデュース:Black-indie Project

小野川映画
THE FILMS COMMUNITY

【タイトル】 ヲノグァワ -WONOGAWA-

【ジャンル】 SFスリラー

【時間】 90分 ~ 110分

【監督・脚本・編集】 山口 ヒロキ 氏
(第2回インディーズムービー・フェスティバルグランプリ)

【映画制作の意図・コンセプト】

この作品は、山形県米沢市にある小野川温泉地域の若者を中心に立ち上げられたプロジェクト【小野川・ザ・フィルムズ・コミュニケーション】が世界に打ち出す“小野川映画”発足記念第1弾映画作品。

新進気鋭の若手監督「山口ヒロキ」氏を起用し、映画作品【ヲノグァワ-WONOGAWA-】を制作・発信します。

また、撮影ロケ地は当然のことですが劇中の場所自体の設定をこの山形県米沢市小野川温泉周辺と決定しました。

この【ヲノグァワ -WONOGAWA-】は映画作品だけに留まらず、ノベライズ(本)・作品のテーマソング(サントラ含む)・漫画本出版などを行う計画です。

劇場映画との連携展開により、小野川温泉の認知・訴求活動の一環として、若者の好奇心に訴えかけるようなイメージ作りを目標に、ブラックインディプロジェクトとの協力体制のもと小野川を舞台にしたSF映画を制作します。

世界中が天変地異で滅び行く中、画期的な遺伝子工学技術と温泉の蒸気を動力源にしたある装置のおかげで世界で唯一、人類の存続を可能にした街、小野川。

その後、800年の時を経て、地球最後の国家となった小野川を舞台に国家を不当に牛耳る政府と革命を目指す、歴史研究家達の生死をかけた闘いを描く。

【 舞 台 設 定 】

1000年後の未来。現在の山形県米沢小野川温泉に位置する地域に形成された集落。

22世紀末、「大崩壊」と呼ばれる地球規模の天変地異が発生。(隕石衝突、火山噴火、あるいは核戦争など原因は不明)

その後の大規模な地殻変動により、地球は大きく姿を変えた。

わずかに生き残った人類は地上に残った文明を寄せ集め、各地に小規模の国家を形成して生活していた。

【 あ ら す じ 】

その国は「ヲノグァフ」と呼ばれていた。

果てしない荒野の中、地表に取り残された旧世界の工業施設群の廃墟を中心に形成された小さな国家。

その地下から極秘裏に発掘された資源や技術を利用して約6千人程の人間が暮らしている。

その国は700年程の歴史があった。

それより以前の事は誰も知らなかった。

監視局の一部の首脳陣のみが、旧世界の情報を独占していた。

歴史研究家：月山ヲノガは監視局がひた隠しにする正しい歴史を解き明かすため、旧世界の遺跡を発掘し、忘れ去られた文明の形跡を辿って数百年前の遺物から情報を復元する研究を進めていた。

ある日、コメツガ遺跡で発掘を行っていた月山は、1000年前の地層から風化した携帯電話を発見する。

その携帯電話から旧世界の情報の復元に成功する月山。

その情報をめぐり、監視局との生死を賭けた攻防が始まる一。

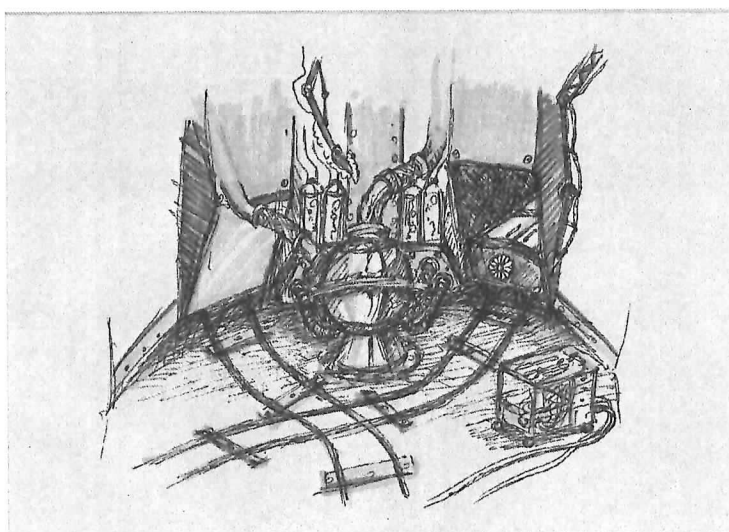
小野川温泉およびその周辺で撮影を行い、また小野川周辺の地名や関連する名称を未来のコトバやアイテム、人物名としてふんだんに取り入れる。

▼具体例

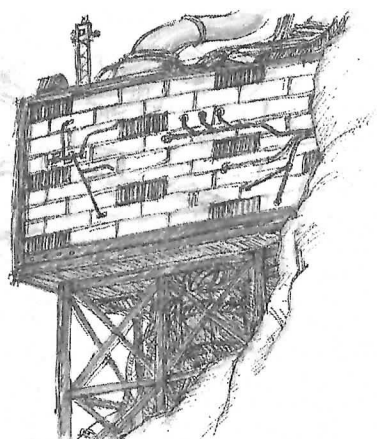
★月山ヲノガ、斜平(なでら)教授などの人物名、ヨタカバラ第3居住区などの地名に小野川に関する固有名詞を使用。 写真:斜平サクトバリウス教授(左)と月山ヲノガ(右)



★温泉の蒸気を動力源にした装置とその施設。



★街の中心には温浴設備がある。



「ヲノグァワ」の都市機能の動力源である温泉の蒸気を利用した発電施設と隣接して、巨大な温浴設備がある。各家庭に浴室は無く、街中の人間がこの温浴設備にやってくる。そこは人々の社交場となっており、また治療を備えた医療施設でもある。

(小野川の温泉施設をお借りしてロケセットを設営)街の水道からは温泉が出る。
飲料水として使用する場合は浄化冷却器を通してから使用する。(小野川の温泉はそのまま飲める)

★国民は「夢ぐり」コマにそっくりな「グリーム」と呼ばれる通行手形を首から下げていて、街の要所要所で身分証として提示を求められる。パスポートのようなもので、これを所持しない国民は正規な国民として認められていない。

